

思考力、判断力、表現力等を育成する教材及び指導方法についての研究

－新聞を活用して目的に応じた書く力を育成する教員研修プログラムの開発－

高知県教育センター チーフ（研究開発担当） 武市 綾香

1 研究目的

全国学力・学習状況調査によると、我が国の児童生徒には、資料や情報に基づいて自分の考えや感想を明確に記述することなどに課題が見受けられる。また、PISA2009年度調査においても、取り出した情報の関係性を理解して解釈したり、自らの知識や経験と結びつけたりして考えることがやや苦手であると指摘されている。本県では、これらの基盤となる思考力、判断力、表現力等の育成に教員研修等を通して取り組んできたが、依然として課題が大きい。また、全国学力・学習状況調査の結果から、新聞等への関心の高さと学力調査の正答率には強い関係性が見られるが、本県の中学生は、新聞等への関心が全国平均よりも低い。

新聞は、学校にとって手に入りやすいうえに、様々な分野の話題を即時的かつ多角的に取り上げているため、思考力、判断力、表現力等を育成するための教材づくりに適している。特に、地元の新聞には児童生徒に身近な話題も多いことから、学習意欲を高め、児童生徒自ら学習を発展させて取り組むようになることも期待できる。

そこで、本研究では、高知新聞社と連携し、児童生徒の思考力、判断力、表現力等を育成するため、新聞を活用した指導方法や教材開発力を高める教員研修プログラムを開発し、その手法や効果を県内各学校に普及させる。

2 研究内容

本研修プログラムは、当教育センターが実施する研修の一環として開発し、主として「教科研究センター講座」の連続講座として実施した。この講座は、研修プログラムの試行的な役割も果たしており、受講者の反応等から、その成果や課題が明確になり、研修プログラムの改善にも役立った。

研修プログラムは、「（１）研修プログラムの開発と試行」「（２）テーマをより焦点化した研修プログラムの再構成と実施」「（３）今後の研修プログラム開発への試行」のプロセスで開発を行った。また、児童生徒の思考力、判断力、表現力等を育成するために新聞を活用し、指導方法の改善に役立つ研修プログラムとなるよう工夫した。

こうした研究の成果を教員用ガイドブックにもまとめ、各学校等に普及した。

(1) 研修プログラムの開発と試行

ア 新聞を活用した効果的な教材の開発

【研修の概要】

教科研究センター講座 平成24年10月27日（土） 受講者19名

○既存の新聞記事を使った教材による学習を体験する。

- ・新聞記事を使って見出しを考えることが、文章の要約や語句の学習にもつながることを体験する。
- ・既存の新聞記事をラジオ原稿に書き換えることで、新聞とラジオとの原稿（発信方法）の違いを考え、目的に応じた書き方を体験する。

○新聞づくりを取り入れた授業の実践事例を用いて、新聞づくりを授業に取り入れる意図、生徒に対する手立てや留意点を具体的に研修する。

【研究としての意図】

これまでに生徒に対して実践し、成果があった教材や指導事例を使って教員研修を実施することにより、教員研修の題材としての活用方法を検討する。

イ 様々な教科等で新聞を活用した授業の開発

【研修の概要】

教科研究センター講座 平成24年12月8日(土) 受講者6名

○教科書と関連させて新聞を用いる教材開発の方法について学習指導要領の指導事項で確認するとともに、新聞を使った教材を作成し、それを用いた授業のイメージを構想する。

【研究としての意図】

前回の教科研究センター講座の受講者は国語科担当や国語科に関心の高い教員が多かった。しかし、言語活動の充実の趣旨を踏まえると、新聞を活用した授業が国語科以外の教科等でも実施されるようにしたい。そこで、様々な教科等で、新聞を活用した授業のイメージをもつことができるようにする。

ウ 研修プログラムの見直し

【研修の概要】

高知県教育センター所内指導主事研修会 平成25年1月23日(水) 指導主事40名

○教科研究センター講座で行った研修内容をもとに、不十分な内容についてプログラムを開発する。

- ・様々な教科等において、これまでに実施した「新聞を活用した授業」の題材や事例を収集する。
- ・収集した授業事例を観点別学習状況の観点に照らして、身に付けさせる力を明らかにする。

【研究としての意図】

指導主事等が研修プログラムを体験することで、専門的な見地から意見をもらい、研修プログラムの改善に役立てる。

また、これまでの研修で使った事例は、国語科や社会科のものが多かったが、その他の教科等の実践にも広がるよう、様々な教科等の事例を専門の指導主事に作成してもらい、改善した研修プログラムに組み込む。

エ 成果と課題

○ 受講者が「新聞を活用した授業は楽しい」「難しくない」「教科等のねらいとする力が身に付く」と感じる事が、導入期の研修には重要である。そのため、新聞の「見出し」を考える学習は効果的であった。

しかし、「見出し」を考える活動を行うだけでは、授業で指導する内容との関連に気が付きにくい。そこで、研修では、「見出し」を考えることが、文章の構成の仕方を考えることや、文章の内容を要約すること、語句の意味について考えること、自分の伝えたいことを明確にすることなどにつながるということを理解できるようにした。このことから、教科等のねらいとの関連に気付くことが、取り組む意欲を高めるためにも大切であることが分かった。

○ 新聞づくりを授業に取り入れる際に、その教科等のねらいを明確にするとともに、新聞づくりの過程にそのねらいに迫る手立てを入れる重要性について具体的に説明することで、多くの受講者が新聞づくりを授業に取り入れる意義を感じたようであった。

そこで、研修プログラムを見直すときは、具体的な教材例や指導例を示すだけでなく、身に付けさせる力(学習指導要領)を認識できるようにした。

(2) テーマをより焦点化した研修プログラムの再構成と実施

平成24年度に試行した研修プログラムは、個々の内容が単発的であった。そこで、平成25年度は、高知県教育委員会が実施する「学校新聞づくりコンクール」に向けた研修としても位置付け、テーマを「目的に応じた書く力の育成」に焦点化して研修プログラムを組み直した。なお、その前半は教科研究センター講座として県内3カ所で行い、後半は、新たな内容も加えて高知新聞社との共催講座として実施した。

ここでは、平成24年度の研究成果をまとめて作成した前半の研修プログラムを検証する。

ア 研修プログラムの構成

このプログラムは、高知新聞社編集局N I E推進室の記者の協力で、学習指導要領の趣旨と実践が結び付くよう、次のように構成した。

第1部 講義：言語活動の充実と新聞活用

学習指導要領で重視されている言語活動の充実の趣旨を踏まえた新聞の活用について考える。

1 新聞を活用した授業のイメージをもつ。

(1) 実際の新聞記事を使って、記事の構成の確認と、それを活用した授業場面を想起する。

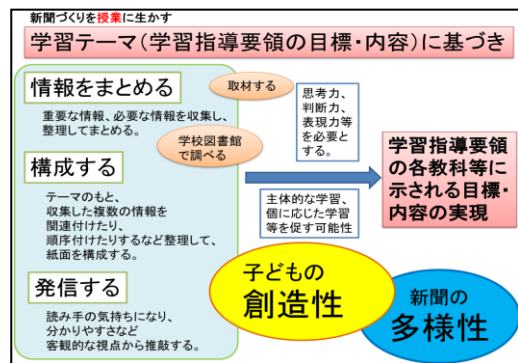
実際の新聞記事を使い、その記事の見出しを考えてもらった後で、その記事の文章構成と学習指導要領で学習する内容との関係を解説する。これは、第2部の演習にもつながることを説明する。

(2) 各学校種、各教科・領域の授業で新聞を活用した事例を確認する。

当教育センター指導主事等で考えた事例を用いて、学習活動のイメージだけではなく、育成する力についても認識する。

2 各教科等における言語活動の充実の趣旨を踏まえ、新聞を授業で活用する趣旨を考える。

学習指導要領の趣旨を踏まえて、今、なぜ、新聞を取り入れた授業に取り組むのかという趣旨を理解する。



第2部 演習：新聞づくりのポイント ※講師 高知新聞社編集局N I E推進室

新聞づくりをとおして目的に応じた書く力を育成するよう、新聞記事の構成を踏まえた文章の書き方を体験する。

1 「はがき新聞」の書き方を通して新聞記事のリード（記事の要約）や見出しの付け方を体験する。

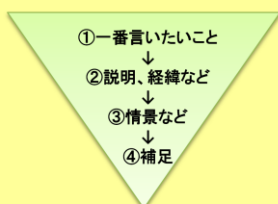
2 「はがき新聞」を作成する。

書こうとすることの要点を明確にして、相手に伝わりやすい文章にするために、必要なことを押さえた文章の書き方を、実際に「はがき新聞」を書いて学ぶようにする。

3 「はがき新聞」から本格的な記事への展開のさせ方を理解する。

大切なことから書く

人に伝わりやすい文章のコツは「逆三角形」。
伝えたいことを一番最初に書くことが、とても大切です。



「誰が読んでも分かる」ために・・・
●SWI H
●専門的な内容のやさしい説明
●客観的・中立的視点からの表現・描写
・・・などが必要。



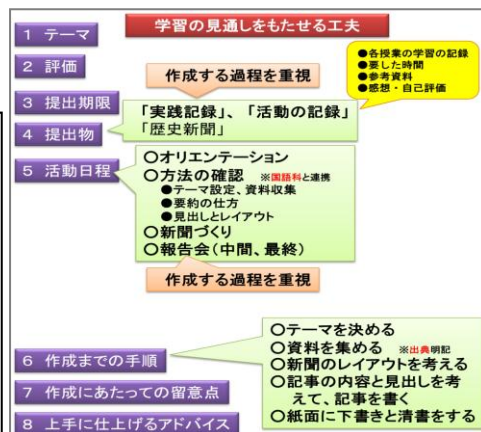
これが「はがき新聞」だ！



第3部 講義：新聞づくりを指導に生かす

学習の中に新聞づくりを効果的に取り入れる指導の在り方について考える。

- 1 学習指導要領の総則の解説に示される言語活動の事例に照らして、「はがき新聞」を学習活動に取り入れる機会を考える。
「はがき新聞」を活動としてだけでなく、言語活動の充実の趣旨と実践を結びつける。
- 2 授業に新聞づくりを取り入れた実践の事例を用いて、指導計画の作成や学習の過程を評価するための手立てについて確認する。また、学習指導要領に照らした評価の重要性についても確認する。



イ 受講者の反応

受講者数：90名 (6/16(日)西部19名、6/23(日)東部23名、6/23(日)本部48名)

アンケート回答件数：81件 欠損値のない76件を集計

問1 この講義・演習の受講前に比べ、新聞を活用した授業等の教育実践に対する関心が高まりましたか。

4件法	割合			
	とても当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
3.6	57.9%	39.5%	2.6%	0.0%

ア	新聞を活用した授業等に、自分も取り組もうと思った。	69.7%
イ	新聞を活用した授業等に、学年や学校全体で取り組もうと思った。	29.0%
ウ	新聞を活用した授業等に、学年や学校で取り組むのは難しいと思った。	1.3%

※ア、イ、ウは
そう思うとき
に選択。
(複数回答可)

【考察】

この研修を受講し、「新聞を活用した授業等の教育実践に対する関心が高まった」という肯定群が97.4%に達しており、新聞を活用した授業の推進に対して一定の成果があったと考える。

「新聞を活用した授業等に取り組む」ことについては、「自分も取り組もうと思った」受講者は69.7%であったが、「学年や学級全体で取り組もうと思った」受講者は29.0%にとどまり、組織的な取組となるまでには、更に啓発が必要である。

問2 新聞を活用した授業等を行うために役立つ内容でしたか。

研修プログラム		4件法	割合			
			とても当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
1	講義「言語活動の充実と新聞活用」について	3.4	48.7%	46.0%	3.9%	1.3%
2	演習「新聞づくりのポイント」について	3.7	72.4%	26.3%	1.3%	0.0%
3	講義「新聞づくりを指導に生かす」について	3.4	51.3%	42.1%	6.6%	0.0%

【考察】

全ての講義・演習について、肯定群が90%を上回っているため、この研修は新聞を活用した授業を行うために役立つものであったと考える。

内訳を見ると、新聞の書き方の実技を行った演習「新聞づくりのポイント」について「とても当てはまる」が72.4%で特に高く、実際に授業に使ううえで、生徒にすぐに与えられる教材への関心が高いと考えられる。

なお、言語活動の充実の趣旨や、学習指導要領に基づいた評価などを確認した講義に対しても、肯定群が90%を上回っているため、趣旨徹底の機会になったと考える。

問3 本日の講義・演習の内容を生かして授業等の教育実践を行うと、次の能力を高めると思いますか。

能力	4件法	割合				
		とても当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	
1	思考力	3.5	50.0%	48.7%	1.3%	0.0%
2	判断力	3.1	21.0%	71.0%	7.9%	0.0%
3	表現力	3.7	73.7%	26.3%	0.0%	0.0%

【考察】

「思考力」「判断力」「表現力」全てにおいて、90%以上の高い肯定的な回答であった。特に、肯定群が100%である「表現力」は「とても当てはまる」が73.7%であり、「目的に応じた書く力」の育成を中心に研修内容を組み立てた効果があったと考える。

「思考力」も肯定群は98.7%あるが、「とても当てはまる」は50.0%である。また、「判断力」は肯定群が92.0%あるのに対して、「とても当てはまる」は21.0%である。この結果から、この研修プログラムは、思考力や判断力の育成の点で、改善の余地があると考えられる。記事を書き、紙面を構成するためには、思考力も判断力も要するため、その点を意識できるように研修を工夫する必要がある。

ウ 成果と課題

<成果>

アンケート結果から、この研修プログラムを生かして実践すると、特に表現力を高めることに効果があると多くの受講者が認識している。「目的に応じた書く力」を育成するという趣旨に応じたものとなっていると考える。これは、実際の新聞を使い、新聞記者から記事の書き方を学んで書く体験をすることで、楽しみながら学習できることを実感できたのではないだろうか。また、講義では「言語活動の充実の趣旨等を確認でき、国語科だけではなく、各教科・領域等で言語活動の充実が求められている理由が分かった」というような感想や、「新聞づくりは各教科等の実践に取り入れやすそうだ」という感想もあった。このことから、単に新聞づくりの活動をするだけでなく、学習指導要領の趣旨を踏まえて実践を考えるきっかけになったと言える。

<課題>

受講者の中には、この研修内容が、思考力や判断力の育成につながりにくいと考える者もいた。新聞を活用した学習場面の中に、思考力や判断力を求める場面をより多く設定していくような研修プログラムの開発が必要である。

(3) 今後の研修プログラム開発への試行 ～取材段階に着目した研修内容の開発～

前述の研修プログラムの後半として計画したこの研修は、これまで取り扱っていなかった取材段階に焦点を当て、今後のプログラム開発の試行的な研修として取り組んだ。

【研修の概要】

N I E研修講座（高知新聞社主催、高知県教育センター共催） 平成25年8月7日（水）

受講者数 51名 講師：高知新聞社編集局N I E推進室

- 新聞記事を書き、新聞の紙面を構成するまでの一連の過程とそれぞれの段階における留意点を確認する。特に今回は、取材の仕方と紙面の構成の仕方について詳しく研修した。
- 記者会見形式での取材と、高知新聞社の施設の見学による取材を行い、その内容を記事に書いてA3判用紙1枚の新聞を作成する。

【研究としての意図】

取材段階も丁寧に取り扱うことにより、前半の研修プログラムで受講者に十分認識されていなかった「思考力」や「判断力」の育成について認識できるようにする。

【成果と課題】

- 相手に分かりやすく書くためには、どのような新聞を書きたいのかという見通しをもって取材に臨み、必要な情報を集めることが重要であると認識できた。受講者の感想には「とても考えた」というものが多く、思考力や判断力の育成に結び付く手ごたえがあった。
- 作成した新聞を評価し合うとき、学習のねらいを踏まえた相互評価の視点を示しておかなければ、感想の出し合いや、新聞の見栄えの良さについての評価に留まりがちである。そのため、教員は学習指導要領を踏まえた指導のねらいを明確にもつとともに、児童生徒に対しても、それを示しておくことが重要であることが分かった。

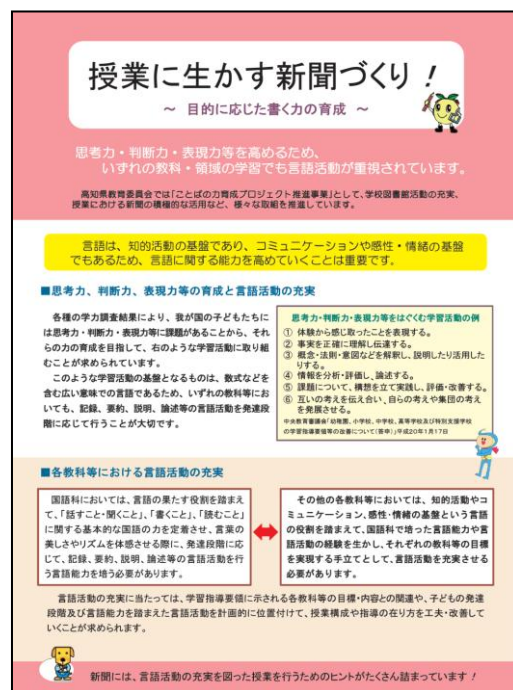
3 研究成果と課題

(1) 成果

- 学習指導要領との関連を踏まえて、新聞を活用した授業の有効性について考える研修プログラムを構成することができた。特に、目的に応じた書く力を育成するための研修プログラムと、新聞を活用した授業に取り組み始めようとする教員に対する研修プログラムは、研修用の資料として蓄積することができた。
- 研究の成果を普及するため、「目的に応じた書く力の育成」に焦点化した研修内容に平成24年度に実施した研修の内容も加えて、ガイドブックにまとめることができた。（「授業に生かす新聞づくり！～目的に応じた書く力の育成～」）
- 新聞を活用した授業実践を核として、当教育センターの研修と高知県教育委員会が実施する事業とが連携して取り組む体制ができたため、学校の中核となる教員の受講も増加した。

(2) 課題

- 新聞を活用した授業として、主に書く力の育成に焦点を当てて研修を整理したので、今後は、新聞記事の情報を活用した授業の在り方に関する研修についても検討する必要があると考える。
- 新聞を活用する授業にある程度取り組んだ教員に対して、有効な研修内容を検討する必要がある。
- 研修プログラムを更に開発するためには、各教科等の特質に応じた授業イメージをもって研修することが重要となるため、研修プログラムを開発・構築していく体制についても検討する必要がある。



【研究分担者】	高知県教育センター	三好 文	指導主事
	高知新聞社編集局N I E推進室	野中 昭良	指導主事 (平成25年3月まで)
		安岡 正輝	指導主事 (平成25年3月まで)
		石川 浩之	室長
		岡林 直裕	副部長
		高本 浩史	